

## 問 身近で気軽に 参加できるスポーツを

答 きっかけ作りの推進事業を開始



新政とうかい  
寺門 定範 議員

**問** アンケートでは、手軽に出来るスポーツ、ウォーキングが多くの方に支持されている。ウォーキングイベントと東海まるとの博物館事業との連携も一案。また、身近で気軽に参加できることを考えると「コミセンを活用してはどうか。」

**答** ウォーキングを習慣化する工夫が必要と認識。まるごと博物館事業や健康増進関連事業との連携を考えている。また、コミセンのホールを活用し、ニュースポーツの紹介や体験会の開催など、きっかけ作り「Be…スポーツ」

推進事業を開始する。

**問** 道路の日常点検は役場職員の活用を

**答** 職員全員を活用する仕組みを作る

**問** 道路の日常点検は、職員のみ、住民の目がある。担当者だけでなく、東海村職員全員の目を活用するため、職員が通勤、庁外に出た時、休日での気付きを出すことが必要。

**答** 職員全員の目を活用することは、有効であると認識している。職員が、不具合箇所を発見した際に、速やかに担当課に報告する仕組みをつくる。

### Be:スポーツとは

年齢や体力に合わせた最適(Best)なスポーツを始め(Begin)、スポーツを楽しむ(have a Blast, enjoy)ことで村民の日常にスポーツが在る(Be)よとの想いを込めた造語略して「Beスポ」(ピースポ)



## 問 保育の量の確保は 保育所の新設で

答 官民一体で必要保育量を確保する



大名 美恵子 議員

**問** 策定中の「村立保育所、幼稚園等に関する再編整備計画」の基本的考え方及び目指す子ども像を問う。

**答** ①適正な施設数と保育量の確保 ②幼児教育と保育の質の向上 ③築後40年の施設は再編整備 ④新施設は認定こども園 ⑤官民一体で待機児童の解消をはかることを基本に、村松幼稚園、百塚保育所、村松宿こども園はそのまま存続。石神幼稚園は、平成34年度を目標に石神小学校の余裕教室を活用。舟石川保育所と舟石川幼稚園

は、平成35年度を目途に幼保連携型認定こども園へ移行し定員を拡大。須和間幼稚園は、5年後を目途に改めて検討。

子育て像では ①五感のフル活用と主体的遊び、感じ、気付きができる環境構成 ②友だちや異年齢集団、先生や地域の方々と一緒に働く、友だちとの折り合い、応援したりする環境 ③保育の質の向上などを重視したい。



子どもの育ちに相応しい環境のため保育所の新設をこども園や空き教室利用はやめ定員も適切に